

令和4年度 第1回 龍ヶ崎市子ども・子育て会議 会議録

			記録者	こども家庭課 関口 真智子	
供 覧	部長	課長	課長補佐	主査・係長	グループ員

件 名	令和4年度 第1回 龍ヶ崎市子ども・子育て会議
日 時	令和4年10月24日（月）午後2時～午後3時50分
場 所	龍ヶ崎市役所全員協議会室
出席者	<p><b>【委員】</b>  米原立将委員，小林孝太郎委員，林敬子委員，山村邦男委員，大野美智子委員，山村尚委員，水野保子委員，小林史人委員，上條静子委員，大芦佳恵委員，森上由里委員</p> <p><b>【事務局】</b>  福祉部 岡田部長  こども家庭課  蔭山課長，二野屏課長補佐，篠塚課長補佐，豊嶋主査，記録者</p>
傍聴者	0人
会議の内容	1 開会 2 部長あいさつ 3 委員紹介 4 会長・副会長の選任 5 議事 「龍ヶ崎市第2期子ども・子育て支援事業計画」令和3年度実施状況について 6 閉会

発言者	審議の内容
事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、ただ今から令和4年度第1回龍ヶ崎市子ども・子育て会議を開会いたします。</p> <p>本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>会議に先立ちまして、ご出席の皆様にご出席の際のご注意を申し上げます。ご意見がある場合は、挙手をしていただきまして、手元のマイクのスイッチを入れてご発言いただき、終了後はスイッチをお切りいただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、お手元の会議次第に基づきまして進行させていただきます。まずは、開会にあたりまして岡田福祉部長よりごあいさつ申し上げます。</p>
岡田部長	<挨拶>
事務局	<p>続きまして、新たな委員の皆様をお迎えし、初めての会議となりますので、ご出席の皆様から自己紹介をいただきたいと思っております。恐れ入りますが、米原委員から順番にお願いいたします。</p>
	<委員自己紹介>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>これから2年間よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、本会議の事務局を務めます職員も自己紹介させていただきます。</p>
	<事務局自己紹介>
事務局	<p>ここで本日の委員の出席者数を確認させていただきます。委員総数14名のうち、出席者が11名でございます。出席委員が過半数に達しておりますので、龍ヶ崎市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により、本会議が成立したことを報告いたします。</p> <p>続きまして、会長および副会長の選出をお願いいたします。</p> <p>ここから会長が決まりますまでの間、会議の進行につきましては、岡田部長をお願いいたします。</p>
岡田部長	<p>それでは会長が決まりますまで、会議の進行を務めさせていただきます。</p> <p>ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ですが、会長の選出を行います。条例第5条により会長、副会長については、委員の皆様の互選により選出することとなっております。</p> <p>何かご意見がございましたら、よろしくお願いいたします。</p> <p>林委員お願いします。</p>
林敬子委員	<p>昨年と同様、米原先生にお願いしたらいかがかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。</p>

	<「異議なし」の声>
岡田部長	米原委員というお声がありました。 異議なしの声もいただきましたが、もう一度委員の皆様いかがでしょうか。
	<「異議なし」の声>
岡田部長	異議なしということで、ありがとうございます。 それでは、龍ヶ崎市子ども・子育て会議の会長には米原立将委員を選任したいと思います。委員の皆様の拍手をもって、ご賛同いただきたいと思います。
	<一同拍手>
岡田部長	ありがとうございます。 それでは、ここで議長を米原会長に交代させていただきたいと思います。 会長、よろしく願いいたします。
事務局	ありがとうございました。 米原会長には議長席までお越し願います。 それでは米原会長よりごあいさつを頂戴したいと思います。お願いいたします。
米原立将会長	はい。改めまして、米原でございます。 議長という大任をお任せいただくということで恐縮しておりますが、この子ども・子育て会議というのは全国の自治体で開催されていて、地元の皆さんが子ども子育てに関するいろいろなことをきちんと考えて、いろんな方向性を確認して、ひょっとしたら決めていくというようなものでございますので、皆さんの意見をまとめるというお役かと思っておりますので、ぜひどんどんご発言、活発なご議論をよろしくお願いいたします。 それでは、私の初めての役目はですね、副会長の選出ということになっております。何かご意見はいかがでしょうか。
	<「会長一任」の声>
米原立将会長	はい、では水野さん。お願いします。
水野保子委員	本日はご欠席ですが、子ども・子育てに関する知識をお持ちで、副会長としてのご経験から、会議をサポートするのにふさわしいと思われ、飯塚委員を推薦いたします。 よろしくお願いいたします。
米原立将会長	はい、ありがとうございます。 今、飯塚委員という声がありました。
	<「会長一任」の声>
米原立将会長	保育幼児教育にお詳しい飯塚委員が適任だと思いますので、副会長には飯塚拓也委員を選任したいと思います。皆様、拍手をもってご承認いただければと思います。

	<p>&lt;一同拍手&gt;</p>
米原立将会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは事務局から飯塚さんにご報告をお願いいたしますので、よろしく お願いいたします。</p> <p>それでは議事次第にのっとして議事を進めて参ります。ご協力、お願いいた します。</p> <p>まずは、会議は必ず議事録というのを作成いたしますので、委員の皆さんの 中から、毎回二方に議事録署名人をお願いすることになっております。</p> <p>今回は、小林孝太郎委員と林委員にお願いしたいと思いますが、よろしいで しょうか。</p> <p>(小林孝太郎委員と林委員承諾)</p>
米原立将会長	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。龍ヶ崎市子ども・子育て支援事業計画の令和3年 度の実施状況についてでございます。</p> <p>事業計画という資料を事務局から送っていただいております。</p> <p>ではこの資料に基づきまして、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>なお、ご質問等につきましては、この説明の後に一括してお受けしたいと思 いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>令和3年度実施状況報告について &lt;事務局説明&gt;</p>
米原立将会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、何か質問があるでしょうけども、たっぷり説明いただいたんで、 最初の説明のところも、思い出さなくちゃいけないかもしれませんが、いかがで しょうか。</p> <p>はい。山村さんお願いします。</p>
山村尚委員	<p>1点だけお聞かせください。</p> <p>令和3年度の報告関係ではないんですけど、昨今の幼稚園とか保育園の 送迎バスの中で事故が起きて、国が自治体に対して設備の支援をして、各バ スにそういう機能を今後取りつけるような動きになっていると思うんですけ れど、こども家庭課の所管だと思うんですが、この辺りの動きって、今どうな ってますでしょうか。</p>
米原立将会長	<p>はい。では、お願いします。</p>
事務局	<p>はい。</p> <p>そのバスの事故に関しまして、今現在、10月12日付で国から通知が来ており ます。</p> <p>緊急対策としまして、安全装置の義務づけ等々については、来年度4月から 実施する方向で今、国の方で準備を進めているということになっております。 その安全装置の装着については1年間経過措置を設ける予定です。</p>

	<p>ただ、なるべく早めにつけていただきたいというところで、6月末を目途に、現場に働きかけをしながら、早急に装置、装備をつけていただくというようなことを今予定しております。</p> <p>これに対して国の方でも、財政的な支援を今用意しているということですので、また今後、国からどういった製品があって、金額がいくらぐらいでというのがこれからおそらく示されてくるものと思われまので、それを注視しながら、市の方としても対応考えていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
米原立将会長	<p>はい。</p> <p>痛ましい事故がありまして、たぶん現在は皆さんすごく緊張して運用されているかと思えますけども、今後、そういったことが起こりにくいような機器の設置っていうのが、目指されてるということでございます。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p> <p>ポイントとしては少子化によって、子どもの数が減っていて利用者が少なくなっているということ。あとは、コロナのこともありましたけれども、生活状況の変化でより市民が必要な方が出てきているのではないかというようなことですね。</p> <p>それに対して今後、この龍ヶ崎市としてはどういったことが。</p> <p>はい、お願いいたします。</p>
山村尚委員	<p>もう一つ伺わせてください。</p> <p>今、全国的に子どもの数っていうのが減っているっていう状況がございまして、私も耳にするところでは、やはり幼稚園、保育園でも、定員に満たないところが出てきているというところがあるようにちょっと聞こえてはいるんですけど、龍ヶ崎の現状っていうのは、今どのような状態になっているのか、新しくとまと保育園ですか、あちらもできるっていうことも踏まえて、ちょっとお聞かせいただければと思います。</p>
米原立将会長	<p>はい、お願いします。</p>
事務局	<p>はい。</p> <p>まず龍ヶ崎市内のお子さんの人数からお話をさせていただきますと、今回は令和3年度の実績報告なんですけど、令和4年度の4月でお話をさせていただくと、0歳から5歳までの未就学児ですね、その人数というのが2,588人となっております。</p> <p>昨年度、令和3年の4月の時点では、0歳から5歳までのお子さんの人数というのが、2,732人だったんですね。2,732人です。</p> <p>さらにもう1年前をみますと2,922人ということになっていまして、相当数減っていると。3年前2,900人だったのが、今2,500、2,600人弱ということになってますので、相当減ってきているというのがまず実態というふうになっています。</p> <p>一方でですね、保育所を利用する方っていうのが女性の社会進出が拡大し</p>

てきまして、保育のニーズというのは引き続き増えています。なので、ニーズが増えているというのは割合として増えているというようなところで、お子さんの数は減っているんですが、保育を必要とする方が割合としては増えているので、保育所を利用するお子さんの数というのは、そんなに減ってはいないというのが現状というふうになっています。

そういった中で、今、委員からも話がありましたように、定員割れの施設が出てきているという話もあるんですが、一部やはりそういった影響は多少出てきたのは現状です。

それは年度当初の話なんですけども、年度が進むにつれて、お子さんが生まれたりであったりとか、お母さんが仕事、育休から復帰されるというところもありまして、年度の月が進むにつれて、保育需要というのはどんどん毎年増えていくような傾向にあるんですけれども、現時点ではおおむね利用定員の人数が保育所の方に入っているというふうな、認識です。

また一部の保育施設では、さらに、利用定員、先ほど弾力運用というのがありましたけども、利用定員がありまして、その20%を越えるところまで受け入れることができるようになっています。その弾力運用を使いまして、利用定員を超えてお預かりしていただいている施設もあるというのが現状です。

それなので、今お子さんがまた減ってきているので、ちょっと来年度以降どうなってくるのかというのを、注視していかなければいけないんですけれども、年度当初に関しては、利用定員を下回ってスタートするところがこれからちらほら出てくるのかなというふうなふうに思っています。

ただ、年度の月が過ぎていくにつれてどんどん利用定員まで埋まっていくという傾向が、今後しばらく続いていくだろうというふうな考えています。

ただ、お子さんが減るとお子さんを預かった人数によって保育所の運営費というのが国から市を経由して支払いがされるわけなので、お子さんが入らなければ運営費は園としてはもらえないというふうなところもありますので、そのへんはですね、各施設と情報交換をしながら、連携を密にしていきつつ八原保育所、公立は八原保育所1か所なんですけれども、そこが今利用定員144人という結構大きな利用定員を持っていますので、八原で受ける人数を抑えるなどして、なるべく民間施設の運営に影響が出ない形でこの少子化の方に対応していければというふうな考えているところです。

以上です。

山村尚委員

ありがとうございます。

八原保育園の調整弁の役になってというお話をちょっと以前も伺ったことはありますけれど、2,900人が2,580人っていうのは320人減ったということで、女性の社会進出も限界がありますからね、やっぱり長い目で見ると減ってってしまうのかなっていうのと、そのときに、八原保育所が調整弁になったとすると、その限界っていうのもありますし、八原保育所を使っていた親御さんたちがやはり困ってしまうようなことも出てくる可能性があるんで、そのへんのことを早めにキャッチして、対策を打っていただければと思います。

以上です。

米原立将会長	他、いかがでしょうか。
森上由里委員	<p>恐れ入ります。</p> <p>ちょっと利用者目線からの質問になっちゃうかもしれないんですけども、4ページについてですね。今日この場で初めて知ったことだったんですが、3番の休日保育事業のところ、日曜日とか祝日にも預かっていただけるところがあるということでお間違いないと思うんですけど、私も今、普段、今日も子どもを園に預けているんですけども、この園から日曜日もこういうところがあるんだよと聞いたことがなかったので、どのようにして利用者に対して、周知していたのか、私がかたく情報をキャッチできなかったってところがあったと思うんですけども、日曜日が仕事になるっていう場合が自分もありますので、いい機会かなとか思ったり、私みたいに日曜日の仕事は子どもがいるからできないというふうに制限してる人ももしかしたらいるのかなと思うので、ぜひ周知をたくさんしていただけるといいなって思ったのが1点です。</p> <p>次に二つ目になるんですけど、9ページですね。じゃないですね、8ページです。8ページで3番のファミサポのことについて、この利用者数、小学生のことだと思うんですけども、茨城県内でも2位の利用率だってことですばらしいなって思ったんですけども。ここだけすごく特出して数値がすばらしいのかな、ここだけではないと思うんですけども、この要因は何だったのかなってというのが疑問に思ったところです。</p> <p>以上です。</p>
米原立将会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>まず休日保育利用の周知方法についてお願いします。</p> <p>その続きはファミサポですね。</p>
事務局	<p>まず、質問の第1点にありました休日保育に関してなんですけども、実施しているところ1施設ということで報告させていただいております。名前を出させていただきますと、アドバンスキッズという保育所になるんですけども、ここは地域型保育といいまして0歳から2歳までのお子さんが通える保育施設なっています。なおかつアドバンスという名前からご想像がつくかと思うんですけども、株式会社アドバンス、ニュータウンの北竜台、中根台のあたりですね、携帯電話の販売などをやっているアドバンスさんの、従業員向けの保育施設ということになっております。</p> <p>それなので、基本的には市内の保育所というのはやっぱり日曜日っていうのは開けていないところがほとんどということで、このアドバンスに関しても、たまたまアドバンスさんがお店を日曜日も開けているので、その従業員向けに日曜日も預かりをされていて、一応、地域枠というのがありますので、その地域枠を活用して利用されているお子さんも一部休日保育を利用できるというような状況になっておりますので、ちょっと現段階ではなかなか周知というところも難しいというか、そういう利用者が制限されてしまうところもありますので、パンフレット等々ではお知らせをしているんですけども、窓口に来て保育所を希望されてる方に直接お話を伺いながら、必要な方にはご案内をさせていただいているというのが現状となっております。</p>

米原立将会長	<p>地域型保育事業というのがね、この制度が始まってもう間もなく7, 8年経つんですけれども、地域型は事業者が設立したもので、主に事業者用の保育、でも地域枠ということで、一定数が利用できるということです。こういって説明を聞かないと分からないことがたくさんありますので。</p> <p>はい、引き続きお願いします。</p> <p>では、ファミサポですね。どうして龍ケ崎市ではファミサポの利用数が茨城県で2番目と多いのであるか、その要因をご説明いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。ファミリーサポートセンター事業につきましてご説明させていただきます。</p> <p>龍ケ崎市の活動件数が多い要因といたしまして、ファミリーサポートセンター事業というのは各市町村にはほぼほぼあるものなんですけど、事業の内容が各市町村によって違うところがありまして、例えば龍ケ崎市で1番多い送迎部分、こちらは龍ケ崎市では、サポーターさんの自家用車、ご自分の車で送迎にすることが可能になっております。他の市町村では自家用車を使わない送迎しか行っていなかったり、公用車だったり、自分の車で送迎というのを認めてない市町村も多いために、活動件数の幅がだいぶ出ているのかなというところなんです。やはり自家用車で送迎してもらえるとということでは、利用者の方にとってはすごく大きくて市外に習い事で行きたい、そういう親御さんもいらっしゃるんで、やはりそこが一番の大きな要因かと思います。</p> <p>以上です。</p>
森上由里委員	<p>大変理解が深まりました。ありがとうございます。</p>
米原立将会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>でも、そういう保険などいろいろなハードルをきちんとクリアして、利用者にもサポーターの方にも手を挙げやすいっていうか、引き受けやすい事業になってるといことですね。勉強になります。龍ケ崎で良かったです。</p> <p>はい、他はいかがでしょうか。どうぞ。</p>
大芦佳恵委員	<p>報告書の18ページの5番なんですけど、必要利用定員、令和3年度443名に対して、実績が343名なんですけれども、この浮いた100人ぐらいは確認できていないっていう認識でよろしいでしょうか。</p>
米原立将会長	<p>18ページ、乳児家庭全戸訪問こんにちは赤ちゃんかな。これは実際は生まれてなかった、もしくはあれですかね、里帰り出産等ですかね。</p>
事務局	<p>はい。お答えさせていただきます。</p> <p>こちら必要利用定員総数という443人、これは計画値ということになりますので、予測値というか、その計画を策定したときに予測で出した値になっております。この343人というのは、実際に令和3年度戸別訪問をした実数になっております。</p> <p>以上です。</p>
大芦佳恵委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、やっぱり虐待とかネグレクトとかで、確認できてない、潜ってしまっ</p>



	いるみたいなのもよく聞くので、そこが計画とは分からなかったのであり がとうございました。
米原立将会長	ただ、この数だけだとその事業が遂行されているか分かりにくいので、実施 のパーセンテージにすると経過、経緯、数字がわかるので、そちらの方も記載 する検討もお願いしたいと思います。まあ大体90何%っていうことかと思いま すけれども。  そうなんですよね。これは5年先をみて計画を立てるのがその前年度なの で、6年後くらいの話をしているので、急な少子化が進んでいるんですね。  ありがとうございます。他はいかがでしょうか。  山村さんお願いします。
山村尚委員	すみません。先ほどのご回答でちょっと詳しく伺いたいんですけど。8ペー ジのサポーターさん。令和3年度9人で、自家用車を使ってのご回答がさっき あったんですけど、どういった方々が登録されていて、どういう運営の仕方っ ていうか、なかなか想像がつかないんですけども、どういった方々がどうい う意思をもってやっているのかなというのがちょっと知りたいんですけど、教 えていただけますか。
上條静子委員	はい。テディ・ベアがファミリーサポートセンターを委託されていますの で。  サポーターさんは保育士または子育て経験者で、子ども好きな方にしても らってます。
山村尚委員	事故があった場合とかは。
上條静子委員	はい。テディ・ベアは20年間ずっとこういう保育サポートをやっていて、フ ァミリーサポートセンターができたのがちょうど震災の年だったんですね。 なので、11年前なんですけれども、今のところ1回もありません。本当に奇跡 的かなとも思うんですけども、毎日のように、2、30件、送迎してますけれ ども、今のところ1件もありません。ただ、本当によそのお子さんを乗せての 送迎はとても神経を使うことですので、とにかく安全運転、安全運転で行っ ています。  やっぱりだんだんお子さんが大きくなると習い事とか行きたくなくて、で もお母さんがお仕事されていると連れていけない、というのが多いので、ルー ムに迎えに行き習い事に連れて行ってというのが多いです。
山村尚委員	会員を募集して。
上條静子委員	ファミリーサポートセンターで会員を募集して。
山村尚委員	会員登録してもらって、送迎されるのは一般の方っていうことですよ。
上條静子委員	そうですね。はい。
山村尚委員	その一般の方が、じゃあ私が送迎しますみたいな感じで。

上條静子委員	はい。地域なので、大体近い方のサポーターさんを紹介しまして、それでルームに迎えに行ったり、幼稚園に迎えに行ったり、保育園に迎えに行ったりしながら、習い事に連れて行っています。
大芦佳恵委員	はい。
米原立将会長	はい、どうぞ。大芦さん。
大芦佳恵委員	<p>私、サポーターとして、送迎をやったことが何年かありまして、経験したのは、ルームに通っているお子さんで、何時にお迎えに行き、ピアノ教室に連れて行ってくださいとか、塾に連れて行ってくださいって、ご両親がお仕事で習い事に連れて行けない、お迎えの時間には間に合うんだけど送っていくにはちょっと時間が、5時には帰ってこられないですとかいう保護者の方が依頼をして、比較的近くに住んでいる子どもの送迎。私は、送りをしていました。</p> <p>あと、その全く知らない人に頼むって不安とかもあったと思うんですけど、サポートを開始する前に顔を合わせて、子どもとの相性もちょっとみて、それで保護者の方が決めてくださいました。</p> <p>すごく保護者としては、私の娘はもう中学生なんですけれども、たぶん働いている親には、とてもいい制度だと思っています。</p>
米原立将会長	はい、どうぞ。大野さん。
大野美智子委員	<p>補足で、私どもも児童発達と放課後デイ、障がいを持っている方のご家庭の支援を一緒にさせていただいて、よくお世話なっています。</p> <p>逆に、うちの方は受け取る側なんですけれど一例として、お母様がお車ができない、あとお父様が早朝仕事に行ってしまう時に障がいを持っている方なので、美浦特別支援学校なんですけど、スクールバスが一定の場所にしかこないの、早朝お迎えに行ってくださいって、スクールバスの停留所まで送って行ってくださるってことが1例あって、その児童の方は長期休暇、春休み、夏休み、冬休みの時はうちに来てくださるんですけども、うちは通常9時からの開始なんですけど、その時は早朝ということで8時からお受けしますとお約束をして、テディ・ベアさんが朝7時くらいに行かれるのかな、だいたい1時間いくらっていうお値段らしいので、その10分でも超えてしまうという話で、わかりましたと8時に私が待っていますから、来てくださるって約束で、そういう連携をしながら地域のご家庭を支援して下さっているんだっていうのをちょっと関わらせていただいて、日々感じております。</p>
山村尚委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>よくわかりました。</p>
米原立将会長	<p>本当にね、そのサポートが必要な人とその気持ちがある人をつなぐそのプラットフォームっていうのがきちんと稼働しているんだっていうことがここで確認できました。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p>
山村尚委員	市のこども家庭課とか福祉課とかは絡んでいるんですか。

米原立将会長	それともファミサポは基本は社協所管，ではなくて。
事務局	こども家庭課で行っているもので，テディ・ベアさんの方に業務委託をしている事業になっております。
大野美智子委員	<p>ご利用されているご家庭の事情で，塾だったりうちだったり，という関係になると思います。</p> <p>あともう一つ，うちの事業関係としてはやっぱりどうしても福祉課が間に入ることが必要ですね。そこからまたこども家庭課に連携していただくということもありますね。</p>
米原立将会長	<p>サポーターさんは，自分はこのことができますということを登録時にきちんと明らかにし，サポートが必要な利用会員さんは利用会員さんで，こういうことが必要なんですというののマッチングをテディ・ベアさんはやってらっしゃるかと思います。</p> <p>でも，そういったサポーターが一定数いないとこの事業って成り立たないので，やっぱり地域でそういうことをきちんとやってくれる方々の層が分厚いんだなと思いますね。</p> <p>はい，他はいかがでしょうか。</p> <p>先ほども，少子化で2年で300人以上減っているとありましたが，これは保育の場合は，利用率が上がれば，何とか成り立ちますけれども，幼稚園とかそれから小学校とかはクラス数とか児童数の減少に繋がるかと思うんですけれども。</p> <p>いわゆる保育を必要とする子どもだけではなくて，そういった視点からでもいかがでしょうか。このままいったらまた統廃合なんて話が出てきますよね。もちろんそれ以外のことについてもいかがでしょうか</p> <p>はい，部長。</p>
岡田福祉部長	<p>すみません。</p> <p>せっかくの機会ですので，ご意見をもし伺えたらと思うんですけども，先ほど私が申しました通り，龍ヶ崎市は少子化がどんどん進んでおります。</p> <p>これは龍ヶ崎だけじゃなくて，国全体の問題であるとは思うんですけども，その少子化を止めるために何か施策を打てないかということで，総合計画なども来年度から一新されるわけですけども，よく言われるのは，子育て支援と結婚の対策というんでしょうかね，この二本立てで，少子化を止めようということで，各市町村でいろいろ施策をしてるわけですね。</p> <p>まずは子どもを産んでもらわなければならない，産みたいという人は産みやすい環境をつくるということが一つ。</p> <p>あとは，結婚する人が増えないとどうしても子どもは生まれないので，結婚のサポートをできないかということでやってるわけなんですけども，皆さんどう思われますか。</p> <p>どういふことをすれば，これをやったら増えるよっていうのがあれば。</p> <p>そんな短絡的なものはないかとは思うんですけども，もし何か皆さんが</p>

	<p>日々生活をしていて、こういうことをやれば、こんなものがあればというものがある、ざっくばらんに出していただけるとありがたいなと思うんですが、ちょっとずれますけれども、もしよろしければお願いいたします。</p>
米原立将会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>はい、山村さん。お願いします</p>
山村尚委員	<p>立場上、いろいろなお話を聞いていると、まず龍ヶ崎のまちに個別の支援は、例えば新しく家を買うとか、お子さんが生まれたらそこにお金を出すとか、そういう個別の支援は龍ヶ崎は一生懸命やっていると。思うんです。</p> <p>さんさん館の設備に対してもハード面を見てみても、あれはすばらしいもので、他の市町村にはとても無いようなものがあるなど。子育てのあそこですね。あとテディ・ベアさんがやっているところもすばらしいなと思っているんですけれど、やっぱり若いお母さんたちがそこに住むかどうかというの、そういう支援があるなしとはちょっと違ってると思っていて、まあ基本的に土地が安くて通勤しやすくてっていうのももちろんあるんです。そのまちに魅力があるかどうかというところ。こども家庭課とはまた話がちょっと違ってきちゃうかもしれないんですけど、そうすると、街中にもっと魅力を作るっていうところかなと思っていて、実際に龍ヶ崎のお母さんたちが買い物に行く場所っていうのが、市内ではなくて、流山であったり、つくばであったりっていう、外の方に向いてしまっているんですよ。そういう流山であったり、つくばだったりっていうところは、それなりにやっぱり買い物に来る方も多し、当然住んでいる方も、人口も増えてるっていう傾向にあるわけですよ。</p> <p>ところが、龍ヶ崎のお母さんたちは皆さん龍ヶ崎で買い物っていうのはまずしないっていう前提というか、そういう動きになっちゃっていて、そういうお母さんたちがやっぱり龍ヶ崎で買物をしたいっていうようなまちにしなければ、まずはダメなのかなと、いろんな個別の支援はあれはあれでしっかりしているものであり、ハードもしっかり作っているの、あれは素晴らしいなと思うんだけど、やっぱり街中に魅力を持たせるために、今の街中の商店会、商店街をうまく再生するとか、そういった根本的なところをやらないとお母さんたちが、外に買い物に行っちゃっているということは、やっぱり龍ヶ崎に魅力がないっていうことなんですよね。そのあたりかなって。</p>
米原立将会長	<p>はい、青年会議所の小林さん。お願いします。</p>
小林史人委員	<p>龍ヶ崎青年会議所の小林です。すみません、遮ってしまって。</p> <p>まちに魅力があるとかないっていうのは、言っているのかわからないんですけど、きれいごとには聞こえちゃうんです、僕は。</p> <p>僕、3歳と8歳の子どもがいるんですけど、ばりばりな子育て世代なんで、周りも同じような世代が多いんですけど、結局、経済政策というか、社会保障費っていうんですかね、例えば、子どもを産んだらお祝い金で100万もらえますとか。極端に言えばですよ。</p> <p>または、医療費が、教育費がっていうところで、その免除、補助があれば十分なんです。正直、買い物が市内でできるところがあるとかないとか、こ</p>

	<p>このまちに住んだら子育てがしやすい。子育てがしやすいって何かって言ったら、お金の面だと思うんですよ。兵庫県明石市の泉市長が今度辞めちゃいますけど、子どもに特化して政策をぶち込んでいるとすばらしいなと思うんですよ。</p> <p>まちの活性化はもちろんなんですけど、それ以上に、使い込んでいる社会保障費をどこにあてるかっていうところだと思っていて、生活保護世帯の無料塾やこども食堂も今回こども家庭課さんの方でやるっていうということで、負担が大きいと思うんですけど、生活保護に出している費用ってたぶんすごいと思うんですよ。それを減らせとは言いきいんですけど、もっともっと子育て世代にあげられる費用があるのであれば、出産費用もそう、お祝い金もそう、産んだ後の補助ももし出せるのであれば正直そのお金の部分がそういう子育て世代の定住に繋がるんじゃないかなっていうところがリアルなところかなと僕は思っています。</p> <p>すみません、ちょっと生意気ながら、そういう部分なのかなと思っています。以上です。</p>
米原立将会長	はい、では山村さん。
山村尚委員	<p>反論するわけではありません。おっしゃる通りです。おっしゃる通りなんです。</p> <p>茨城県の境町にしてみても、やっぱりそういう支援が明石市もそうですけど、そういう支援がしっかりしていて、確かに入ってきている人が多いっていうのはあります。本当におっしゃる通りだと思います。</p> <p>それももちろんそうなんですけれど、私も同じだと思うんですけど、龍ヶ崎っていうのは東京に通われている方もたくさんいらっしゃって、決して中に住んでいる住民の方がお金がないかっていうと、そんなことはない方たちなんです。</p> <p>要は、使えるお金を結構潤沢に持っている部類にどちらかというところに入りますけど、龍ヶ崎の全体を平均的に見ると、そういったときに、そのお金を市外に使わないで、市内でうまく循環させるようにできるようにすれば、もっと龍ヶ崎が潤っていくのかな、そして若い人たちもまた流入してくるのかなっていうあたりの進め方なんですけどね。私の考え方は。</p>
米原立将会長	<p>色々難しいですけども、でも小林さんがおっしゃるように、まず子育て可能世代とか子育て世代が大事にされているかどうか、安心して子育てができるかどうかというところの第1基盤が、お金とか経済面であるというのは皆さん全く異論がないところかと思えます。</p> <p>もちろん全体、それを地域に回せば、地域全体がまた潤って、より安心安全になっていくっていうようなお話。でも、この結婚活動の支援がこの子ども子育てにどれだけ影響するのかっていうのは、がんばっていらっしゃるのではありませんけども、まず、結婚したいとか、結婚しなくても子どもは授かりますので、安心して子どもを育てられるっていう収入だとか所得っていうのが先立たないと、いけないかなとは思っています。</p> <p>どうでしょうか。もうちょっと時間がありますので市民委員の方からも。</p>

	はい、どうぞ。
森上由里委員	<p>市民委員の森上です。私まだ龍ヶ崎歴がまだ3年ぐらいで、まだまだ新参者なんですけれども、私、この龍ヶ崎市に来たのも夫の地元が龍ヶ崎だから縁あってきたっていうわけで、龍ヶ崎市を選んできましたっていうのはちょっと正直違うんですけども、子育てしている中で、それこそ周りに友人がいない、知り合いもいないという中で子育てしたので、今もしてるんですけども、特に育休だった0歳児の期間とかは、本当にもう孤独との戦いがすごく私にとっては一番のミッションでした。</p> <p>その中で、月から金は毎日さんさん館に通って大人たちと会話をして、私のストレスを発散するみたいなどころで、すごく助かっていたんですけど、土曜日はさんさん館がやってないんで、駅前に行って駅前の先生と話して大人との会話を楽しむみたいなどころをしていたんですけど、日曜日、祝日がどうしてもどこにも窓口がないというか、はけ口がないといえますか、だったので日曜日どうにかなんないかなあと今でも思っています。日曜日に子どもと2人なんです。2人きりになるのが私はすごく嫌なんですけど。なので、どうかこう何か龍ヶ崎市でやってますよみたいなどころがあるとすごく嬉しいなあっていうふうなのを思っております。これは個人的なものですけど。</p> <p>あとは、一番最初に岡田部長から話がありました龍ヶ崎市では1.0人をきっているというところ、わぁこんな状況になっているんだというのを今日この場で知ったんですけども、また若い女性の転出が多いとのことで、今回の議題にもあがっている、じゃあどうしたらこの龍ヶ崎市で永住といえますか、子育ての人数が増えるかっていうのは、今回のこの分厚い冊子もいただき、今日色々説明がある中で、ちょっとうまく言葉にできないかもしれないんですけど、例えば、支援が必要なお子さんだったりとか、1人で育てているお父さんお母さんっていうところの補助、みたいなのはすごいなあと思ったんですけど、別に普通に支援を必要としない元気なお子さんといえますか、普通のっていうとなんか、正しいフレーズかどうか良く分からないんですけど、そういう家族のお子さんたちだったり、その世帯に対してもよりよい生活になるよみたいなのは、なんかもうちょっとあってもいいんじゃないかなっていうのはちょっと漠然的ではあるんですけど、そんなことを今日は感じました。以上です。</p>
米原立将会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>子育てひろば以外にそういった交流だとか、リフレッシュだとかっていうような取り組みというのは、例えばこういうのがあるといってものをもし紹介していただければ。</p> <p>また、日曜日やるとお父さんと子どもが行って、お母さんがリフレッシュできるっていうのが他自治体でよくあるんです。土日は父親連れっていうのがね。なかなか日曜日はないにしても。</p>
事務局	<p>はい、すみません。</p> <p>確かに日曜日とかにご利用いただけるっていうような事業は今のところはないんですが、確かに皆さんがご利用できるような事業はなるべく漏れなくやれるように、その穴を埋めていくように事業の計画をしております。</p>

	<p>あとは、もう一つの考え方としては、ご家族で過ごす時間っていうのもやっぱり大事なかっていうふうな考えもあります。どこか他の場所にそういう楽しみを求めていくっていう場所も確かに展開していかなければならないと思うんですけども、その家族だけの時間っていうのもやはりそれはそれで大事なかっていうのも。すみません、これは逃げになるような意見になってしまうかもしれないんですけども、その辺も大事にしていただきたいていうことで、例えば月曜日から日曜日、週に7日間どこかでいろんな事業があるってというのは、今のところ計画はないんですが、ただご意見としては確かに、普段お仕事などされていてそういう場所に行く機会がないご家庭もあると思いますので、日曜日、行える事業というのも今後考えていきたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>米原立将会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>事業だけが大事ではなく、多分お子さんが大きくなっていくと、子どもを通じた地域の間人間関係ができていくので、公園で会って遊ぶ。そして、親は親でそこでいろんなリフレッシュもでき、子どもは子どもでもう見守るだけいいっていうふうになってきますので、特にやっぱり0, 1, 2歳までの地域にあまりコネクションがないご家庭へのサポートっていうことで、森上さんから話があったかと思しますので、多分転入するためには、そのこの敷居は低くないと、転入しにくいですね、当然ね。</p> <p>貴重な意見をいただきました。ありがとうございます。</p> <p>はい、大野さん。お願いします。</p>
<p>大野美智子委員</p>	<p>聞いてるとハード面よりもやっぱりソフト面、じゃないのかな。本当ずっと、日曜日ずっとじゃなくて、ちょっとでいいから息抜きしたいという、その気持ち。</p> <p>それから、いくらお金を収入があっても、お金っていくらあったって邪魔になるもんじゃないし、かといってあるからって補助はいりませんではないと思うし、やっぱり補助は補助であったほうがいいって思いも、私は分かるような気がするんですよ。</p> <p>個人的に言うと、私3人子育てして、上が健常で下が障がいを持って生まれたので、そのきっかけでこういう障がいのお子さんたちのお手伝いをして気持ちになれたんですけども、本当に、なんだろう無我夢中で子育てしていた時って、いっぱいいっぱいでしたよね。</p> <p>だから本当にソフト面を考えてあげること。それで、それをアピールすることで移住してくれたり、あとは本当におっしゃる通り、結婚しなくても子どもは生まれる、正直言っちゃうにも1人未婚の女性がいるんですが、結婚は考えてないと、パートナーが欲しいと。本当最近になっての話なんですけど、えーっ、親はそうなの？と。いろんな考え方があるんだっていうのもやっぱり受け入れていかないといけないんだっていうのが今、自分の家庭の中でも起きています。だから本当、ソフト面で、龍ヶ崎って、私も隣のまちからお嫁にきたんですけども娘なんかも、龍ヶ崎嫌いじゃないと。今、家業もちよっと手伝ってくれながら東京にも働きに行っているんですけど、龍ヶ崎って自然もあって暮らしやすくていいとこだよねという話をして、そういうふうに通</p>

	<p>てくれているので、そっかここにずっといてくれるんだ、と親としてはすごく安心。</p> <p>いいところを認める、無いものねだりではなくて、いいところをアピールするというのも必要だと思うし、それが一番早いし、いいんじゃないかなと思うんですけどね。何かを作ろうってするとやっぱりお金がかかる。ソフト面というのはね、必要な方のところにしてあげたいということでもいいと思うので、見やすいし分かりやすい。ハード面ソフト面というと財源が枯渇してしまう。そしたらやっぱり、私は今はもう本当にものじゃなくて、ソフト面だと思っています。</p>
米原立将会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それね、もう本当、ファミサポの利用者が多いっていうのはソフトの充実を示しているわけですね。それが、もっと小さいお子さんをお持ちの家庭にもいろいろサポートしたい、できるっていう人を、増やしていけるといいですね。もちろん、お金もそう、やっぱり施設もそう、必要なものは整えていかなければならないんですけども、地域で全体を考えるとその人の繋がりがっていうのは大事だということが、今回の話でいくつも出てきたかと思います。</p> <p>はい、最後に一ついかがでしょうか。</p>
上條静子委員	<p>はい。</p> <p>ソフト面の話が出たので。</p> <p>今年の8月にファミリーサポートセンターの近隣の情報交換会があったんです。そこで、つくばみらい市さんの話で、ファミリーサポートセンターではないんですけど、家事支援サポートっていうのをつくばみらい市さんがやっています、母子手帳をもらってから1歳の誕生日までって制限があるんですけど、料理とか掃除、洗濯あとは上のお子さんの世話とか沐浴とか、そういうのを社協さんなのかな、ちょっと分からないんですけど、ファミサポではないんですが、それをやっているととても好評だと。利用者さんは30分350円払うそうなんです。ただ、やってくれる方が本当に料理が好きな方とか、家事の好きな方、シニアの方で小学校の給食を作ってた方だとか、得意な方が結構いらっしやって、だんだんやってくるとこの方がいいと指名が入ってくるそうなんですけど、そういうのがあって、みんなからいいねいいねという話があったんですね。</p> <p>こちらも社協さんだったかな、家事サポというのがあるんですよ。出産で食事が作れないとか、自分の親を呼べなくて世話を頼めないのやってくれないかっていう相談を受けた時に、社協の家事サポさんにちょっと問い合わせをしたんですけど、シニアの方対象で子育ての方ではないってことで断られちゃったので、何かそういうのが龍ヶ崎にもあったらいいなって思いました。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>そうですね、確かに他の自治体でもその利用料2万円分を1年間で使ってくださいと、別に使わなくてもいいし、2万円分使ってもいいっていうような、制度を持っているところもありますよね。確か杉並区あたりだったかと思います。具体的なそういったご提案をまた共有しながら、ぜひ龍ヶ崎の子ども・子</p>



	<p>育て環境をぜひ良くしたいと思います。</p> <p>そろそろお時間になりましたので、この議事はここで区切りをつけたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>積極的なご発言ありがとうございました。</p> <p>それでは議事は以上となりますので、この辺で第1回の龍ヶ崎市子ども・子育て会議をお開きにしたいと思います。</p> <p>進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>米原会長，議事進行の方，ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様におかれましても，慎重審議，またたくさんのご意見ありがとうございました。</p> <p>それでは，これで本日の会議の方を閉会いたします。皆様大変お疲れさまでございました。</p> <p>ありがとうございました。</p>

上記については、令和4年10月24日に開催した、令和4年度第1回子ども・子育て会議の会議録に相違ないことを確認したので署名する。

令和 年 月 日

会 長 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_